

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 10 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	3871100255		
法人名	有限会社 トゥモロー		
事業所名	グループホーム 憩の郷		
所在地	愛媛県松山市柳原720番地 (電話) 089-992-3337		
管理者	山内 栄樹		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 9 月 3 日	評価確定日	平成 20 年 10 月 21 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 7 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	14 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 7 月 31 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	名	要介護 2	5 名
要介護 3	10 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 87.9 歳	最低 78 歳	最高 100 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地に立地する2階建ての建物である。利用者が地域で安心した生活が送れるよう、近所の方と明るく挨拶を交わし、地域行事の盆踊りや地方祭には積極的に参加し、地区の小・中学校や大学との交流を大切にしている。更に同業者間のネットワーク作りに努め、職員の相互訪問の実施に向けて取り組んでいる。利用者は季節毎に花見やバラ園に出かけ、自然にふれて元気をもらい、ホーム内の年末・年始の行事などを楽しんでいる。協力医療機関とは24時間体制の医療連携をとり、月に2度の訪問診療を受けている。看取りに関しては家族、医師、看護師を交えて話し合い、全職員が方針を共有し、最大限のケアができるよう取り組んでいる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
前回評価では改善項目として5項目が挙げられており、一部の職員により改善している点もあるが、全職員で話し合った上で改善・工夫に取り組んでいるとまでは言えない。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
全職員が評価の意義を十分理解した上で自己評価に取り組んでいる。各職員が全項目にわたって作成し、管理者が集約して完成させている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
2か月に1度開催し、家族の代表、地域代表、地域包括支援センター職員などの出席を得て、ホームから行事報告、災害対策などの情報を伝え、地域包括支援センターから支援状況の説明等をいただいている。現時点では出席者からの多様な意見を聞き取るまでには至っていない。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
ホームの食事会や家族同伴の外出時などに忌憚のない質問や要望を聞き取り、ケアに活かしている。ホーム内外の苦情相談窓口を明示し、家族からの声を聞き取るよう努めている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
自治会や公民館活動に積極的に参加している。管理者が地区サービス調整会に毎回出席し、地域との連携を大切にしている。地区の小中学校の運動会に参加し、中学校の体験学習や大学の実習生の受け入れなども行い、地域との関わりを深めるよう努めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 憩の郷

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 山内 栄樹

評価完了日 平成 20 年 7 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念はある。 地域の中でその人らしい暮らしが出来るように援助することを掲げている。 (外部評価) 「利用者一人ひとりがその人らしい暮らしができるよう援助していく」ことを理念の柱とし、具体的に地域で安心した生活を送れるよう「明るい挨拶、優しい言動、思いやりの心、自立の気持ち、ケアの研鑽」を実践目標として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価で指摘された掲示場所と文字の大きさを変更し、各フロアの玄関に大きく読みやすい文字で理念の五ヶ条を掲示した。 (外部評価) 全職員が理念をより身近なものとして理解し、共有し合って具体的に日々のケアに活かすことができるよう、ホーム内に理念を明示するなどして取り組んでいるが、理念について全職員で話し合う機会は少ない。	※	理念が日々のケアの中で活かされているかどうかミーティング等で定期的に話し合い、より理解を深めていくことを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念をアピールする事はないが、玄関に掲示した理念の五ヶ条を見て理解してもらえと思う。 地域の行事参加、運営推進会議等を通し、理解してもらえるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩やホーム周辺の清掃中の時などに、あいさつや日常的な会話もあり、開かれたホーム作りに努めているが、近所の人との出入りは少ない。	※	気軽に立ち寄ってもらえるような関係になるのはなかなか難しいと思うが、積極的に声かけをしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 認知症の方々なので自治会や老人会への参加はなかなか難しいが、祭りや盆踊りなどの行事などには参加している。 (外部評価) 自治会に加入し、夏祭りや盆踊りなどの地域活動に積極的に参加して楽しんでいる。また小学校の運動会に参加したり、中学校の体験学習や大学の実習生なども受け入れている。		ほとんどの利用者は、一人に職員一人の介添えが必要なので、限られた職員が日常の仕事に支障なく行事に参加するにはどうしても職員に負担が掛かる。頻繁に参加することはなかなか難しいが、無理のないよう出来るだけ参加したいとは思っている。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 利用者の皆さんの事で精一杯であり、地域の高齢者のことまでは余裕がない。家族のことで相談に来られた方への助言は何度か行った。	※	職員誰もが地域の高齢者の困り事などに十分対応できるよう日々勉強していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 事業所のより良いサービスの在り方を追及していく材料としては考えている。職員一人ひとりが自己評価をすることにより一つ一つを理解し、自己啓発に努めている。 (外部評価) 自己評価は各職員が全項目にわたって取り組み、管理者が集約して作成している。作成後、改善点等に関して全職員での話し合いは行っていない。また、外部評価での改善方策等についても話し合う機会は持っていない。	※	理解はしているが具体的な改善には取り組めていないこともある。自己啓発により出来ていないことを改善していきたい。 自己・外部評価共に改善点等について全職員で話し合いを持ち、評価結果を日々のケアの向上につなげていくことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議では各分野の方々の参加もあり、積極的な意見交換が行われている。さらなる地域的情報を得るため、去年より地域の参加者が2名増えた。 (外部評価) 2か月に1度、家族の代表、地域代表、市担当者などの出席を得て、ホームから行事報告、利用者の生活状況、災害対策などの情報を伝え、地域包括支援センターから支援状況の説明等を行っている。次回からの会議では出席者から更に多くの声を聞き取れるよう取り組んでいく考えである。		前回の外部評価で提案された、消防署や交番等の参加も視野に考えていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 毎月、地域包括支援センター北条が開催する松山市北条サービス調整会議の参加により情報収集に努め、勉強会によりサービスの質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 地区サービス調整会議に管理者が出席し、情報交換や交流を行い、また地域密着型サービスなどに関する話し合いに定期的に出席して学習を重ねている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員全員に高齢者虐待・権利擁護事業等の資料を配布している。講習会にも数名参加し、ミーティングで話し合った。現在は必要と思われる利用者はいないと思われるが、いつでも支援できるよう理解はしているつもりである。	※	職員に資料を配布しているが、よく理解出来ていない者もいるようである。いつでも誰でも支援できるよう指導していきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 講習会に参加し、ミーティングでも話し合っている。虐待が見過ごされないよう、管理者や職員同士で注意を払っている。	※	時として、言葉の暴力や冷たく感じられる態度が見受けられる事があるが、それぞれがそれに気付き、反省し努力している部分もある。お互いが注意し合い防止に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約をするときは必ず重要事項説明書や利用契約書を渡して説明し、不安なことや疑問点はいつでも受け付けることを伝えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当を決め接する機会を多くし、話しやすい環境作りに努めている。管理者はそれぞれの入居者と個別に触れ合う機会を持ち、情報収集に努め、不満や苦情は職員と相談しながら対応している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 特別な状態でない場合は、毎月請求書の送付時に個別の近況報告や小遣い帳のコピー、レシート、写真等をお送りしている。健康状態が良くない場合は、その都度家族に連絡を取り、報告または相談をしている。 (外部評価) 毎月ホームから「個人便り」を家族に届け、金銭管理報告、生活の様子、健康状態などを写真を添えて伝えている。更に担当スタッフから、利用者の日々の暮らしの様子を手紙にして届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱をホームの玄関に設置している。一度だけあった家族からの不満・苦情は管理者が受け付け、家族の家で話し合いをし説明をさせていただいた。職員全員へ苦情内容をすぐ説明し、注意を促した。 (外部評価) 家族がホームを訪ねた際や、ホームの敬老会やお花見に参加してもらった際などに、忌憚のない意見や要望等を直接聞き取り、ケアに活かしている。また、ホーム内外の苦情相談窓口を明示して家族にも説明している。		何気ない言葉遣いや態度で利用者が傷つき、誤解を招くことがあることを職員に説明し、気をつけるよう指導した。 今後も本人や家族が遠慮なく苦情の言える関係を作って行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回のミーティングや年2回の食事会で職員の意見や提案を聞く機会を設け、出来るだけ提案に沿うよう努力している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 可能な範囲で調整はしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係が維持できるよう、職員の異動はしていない。離職を抑える努力はしているが仕事の合う合わないもあり、仕方のない場合もある。新しい職員が入った時は、利用者のダメージがなく早く馴染みの関係が出来るよう、他の職員も気遣っている。 <hr/> (外部評価) 利用者との馴染みの関係を大切にするため、職員の異動は行っていない。離職などでやむを得ない場合は、引き継ぎ等で職員が協力し合い、スムーズに移行できるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 市内で開かれる研修会の予定表を配り、本人の希望に合わせて全職員必ず年一回以上参加させている。介護技術の向上のため資格手当を設け、積極的に資格を取るよう進めている。 <hr/> (外部評価) ホームは職員の育成を実践目標として掲げている。全職員が年間1回は希望する研修会に出席するよう決めており、参加した職員は研修報告書を作成し、他の職員は報告書を閲覧して共有し、ケアに活かすよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は地域のサービス調整会には積極的に参加し、情報交換等に努めている。 (外部評価) 地区サービス調整会に管理者が毎回出席して同業者間の交流を持ち、連携を大切にしている。また、同業者間で職員の日交代勤務を行うなどの取り組みを実現できるよう、ネットワーク作りに取り組んでいる。	※	グループホーム連絡協議会主催の相互訪問の参加を予定している。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年二回の食事会の機会を設けたり、日々職場の中で出来るだけ職員の話の聞いたりして、ストレスの原因を把握するよう努めている。	※	職員同士の意見の相違によるストレスは個々人の考え方や視点の違いもあり解決の難しい部分もあるが、できるだけ話を聞きストレス軽減を図りたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 休みの日に研修を受けたものには手当を支給し、積極的に資格取得をしている職員には資格手当を支給している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初は家族からの相談がほとんどで、家族の要望を聞き、入所された後で本人の意見や困りごとなどを聞くことになる。入所当初は職員が頻りに声を掛けたり、気付いたことを連絡ノートに綴ったりしながら情報を共有し、職員全員でケア出来るよう努めている。	※	難しい場合もあるが、出来るだけ入所前に本人の困っていることなどをお聞きできれば安心して入所に至れるかと思われる。家族と相談しながらそのように進めていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用申込みされるとき、困っていることや希望を聞き、また相談に乗っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた本人の状態を見極め、他のサービスの紹介や必要な支援の提供に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族や、出来るだけ本人にも見学してもらっている。やむを得ず利用になった場合は、家族に頻繁に来ていただいたり使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいただくようにしている。 (外部評価) 入居の受け入れ態勢が整った際に家族と共に来訪してもらい、直接面接を行っている。更にホームの生活の様子を見てもらい、納得した上で利用を開始してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常の雑談の中のさりげない会話のなかで昔の話を聞いたり料理の仕方を教えてもらったり、昔の歌をリードして歌ってもらったりしているが、どうしても介護する側とされる側の日常生活が主になり、なかなか支えあう関係を築くことはできていない。 (外部評価) 理念の中に「その人らしい暮らしができるよう支援していく」ことを謳っており、喜びと誇りを持って毎日過ごしてもらえるよう、利用者の得意分野で力を貸してもらい、「お互いさま」の気持ちで生活を分かち合うよう努めている。	※	支えあう関係が理想ではあるが、利用者の状態によって難しいところはある。声かけを大切に、利用者と共に喜び合える生活支援を心掛けていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、ホームでの状況報告をしており、情報の共有に努めている。利用者のことで困ったことがあれば、家族にも意見を求めたりしながら一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族が来所されたとき、自室にて回りに気を使わず話せるようにしている。 本人との会話の中で家族の話に花を咲かせて、家族との良い関係が築いていけるよう支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 誰でも自由に来所していただけるようにしている。馴染みの美容院やかかりつけの病院へできるだけお連れしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士で歌ったり、外のベンチで話をしたり、できないことを手伝ってあげたりしている。 利用者一人ひとりを理解・把握し、職員がつなぎとなり、より良い関係を提供している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退所された方が時々来所され、おやつをいっしょに食べたりしている。いつでも相談を受け入れ、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が雑談の中から聞いたり個別に話したりしながら希望を把握し、アセスメントシートを作成してみんなで話し合いをもっている。 (外部評価) 声かけを積極的に行い、意思疎通の困難な場合は表情や行動から思いや意向の把握に努めている。また、職員会議の際には職員同士で情報を伝え合い、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所事前調査、入所後も利用者や家族の面会時等を通じて、生活歴や好み、大切にしていることなど把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 家族・本人から出来るだけ話を聞くようにし、現状を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者との普段の会話等から本人の意向を引き出し介護計画に取り入れている。また、会話や意思が不明瞭な利用者の意向は家族の意見から確認している。 (外部評価) 新しい利用者に関しては本人の生活の様子や健康状態などを把握し、職員で話し合った上で1か月間の介護計画を作成している。その後、家族の意見を聞き、様々な状況を判断した上で3か月間の計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の定期的見直しは3ヶ月としているが、利用者の状態に変化があるときはミーティングをし、見直している。 (外部評価) 本人の生活の様子や健康状態を観察し、全職員で検討を加えた上で3か月毎に見直しを行っている。状態変化等によっては随時計画を見直し、現状に即した計画になるようにしている。	※	職員の負担にはなるが、利用者の状態変化に伴い、随時のミーティング・即時見直しが実行できるよう努力していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 体温・血圧・食事摂取量などの健康記録、日々の経過記録は午前・午後・夜間に分け詳細に記載され、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者は食材の買出しに出かけたり、お墓参りや馴染みの場所にも職員と一緒に出かけている。かかりつけの医療機関やそれ以外の必要に応じた受診も職員が同行している。 (外部評価) 本人の状況や家族の希望を大切にし、買い物、散歩、墓参り、法要、美容院、受診など、その人らしい生活を安心して送れるよう、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者の意向や必要性に応じて支援する体制ではあるが、あまりそういった事はいまままでにない。 毎年、板前さんにホームで握り寿司を作ってもらったり、沖縄民謡のボランティアなどの訪問は受けている。		もし何らかの必要が出来た場合は協力して支援する体制である。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用する場合がある。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 毎月行われる地域包括支援センターのリードによるサービス調整会議で福祉サービス事業者が一同に会し、勉強会や情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向によりかかりつけの医療機関での受診支援を行っている。協力医療機関とは24時間体制で連携をとっている。 (外部評価) 協力医療機関とは24時間体制で連携を取り合っている。また、近くの歯科、眼科とも協力関係を結んでいる。協力医療機関から月に2度の訪問診療を受けており、協力医療機関以外のかかりつけ医での受診にも職員が同行して支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 月二回の協力医療機関の訪問診療があり、医師と相談できる機会が確保されている。又、より専門的な医療が必要な場合は協力医療機関に紹介してもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の看護師とも馴染みの関係であり相談しやすい。異常があれば電話で相談に乗ってくれる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院への見舞いを頻繁に行い、情報を得たり医師や看護師に相談したりしている。家族とも情報交換や相談をしながら、出来るだけ速やかに退院できるよう支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの必要が生じた場合の指針を定め、家族・医師・看護師の意見を交えて頻繁に話し合い、職員全員で方針を共有し、利用者にとってより良い終末を迎えられるよう援助している。 (外部評価) ホームの看取りの指針に従い、「重度化に伴う意向確認書」を基に家族、医師、看護師を交えて十分話し合い、全職員が方針を共有し合ってホームとして最大限のケアができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 月二回の訪問診療にて、医師とも相談しやすい環境になっている。ホームで出来ないことは訪問看護をしていただき、そのつど訪問看護師に職員でできることを教えていただき対応している。 急変した場合はすぐ対応していただけるよう医療機関とも連携を図っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 自宅での生活習慣・身体状態などの情報交換をし、使い慣れたものや馴染みの物を持参していただくようお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 会話の中に利用者それぞれの趣味や特技の話を変え、誇りの維持に努めている。言葉使いに気をつけ、誇りを傷付けない対応を心掛けている。 (外部評価) 特にトイレ誘導や介助はさりげなく行い、言葉遣い等も人生の先輩としての尊敬をもって、誇りを損なうことがないよう心がけている。個人情報の取り扱いに関しては、ホーム全体で十分注意を払っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 希望された時は即対応している。 職員は「○○されますか?」「○○してくれませんか?」と利用者に声をかけ、意思の確認をしてから対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 散歩・外のベンチでの日向ぼっこ・買い物・歌など、希望があれば出来るだけ行っている。 (外部評価) 声かけを大切に、一人ひとりのその日の表情や気持ちを細かい面まで把握し、その人の希望や体調に合わせて散歩や買い物に出かけたり、食後の手伝いや洗濯物たたみなどを自由に手伝ってもらっている。	※	職員の人数には限りがあり日常の業務もあるので、すべての人に即対応するのは無理があるが、出来る限り利用者の希望に沿って支援できるようこれからも心掛けていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 家族が連れて行くケースもあるが、行きつけの理美容店へは本人の意向に沿ってお連れしている。化粧品の購入にも職員が対応している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も一緒に食事をし、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりの食事の楽しみを大切にしている。 能力的に可能な方は食事準備や片付けをしている。 (外部評価) 調理の手伝いのできる利用者は殆どいないが、食後の片付けを自由に手伝ってもらっている。食事介助の必要な利用者は傍らに座り、声をかけながらゆったりと支援している。食事は彩りもよく、美味しく味付けされている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) たばこを吸われる方はいないが、ビールを飲んでいる利用者がおられる。おやつ時の飲み物はそれぞれの希望に沿って提供している。食べ物は本人の希望通りにはなかなか提供できない場合があるが(他の利用者が羨む等)その時は他の利用者に分からないよう自室で食べていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 全介助で常時おむつ着用の利用者は1名いるが、他の利用者は排泄時間・内容を記録し、排泄パターンの把握により紙パンツ・パット・布パンツで対応している。便秘時にはセンナ茶等利用し、自然排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 週三回入浴できるよう支援している。 本人の入浴希望時間に入浴できるよう努めている。 (外部評価) 2～3日に1度の入浴支援を行っている。入浴を嫌がる場合は、声かけをしながら促しているが、無理強いせず、別の機会を捉えて入浴してもらえよう配慮している。		時間は出来るだけ希望に沿うよう努めてはいるが、入浴日でない日は業務の都合もあり行えない。入浴日でも、現在は日勤帯の職員がいる時間でないが無理である。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせて、その時の状態により自室で自由に休息していただいているが、日中は出来るだけ活動的に過ごし、眠剤に頼らず夜間安眠できるよう生活のリズムを整える支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 園芸の好きな人には園芸を、掃除の好きな人には掃除を、その他、洗濯干しや洗濯物たたみなど、押し付けではなく、出来る人・したい人に合ったことをしてもらっている。 (外部評価) 生活の状況に応じて散歩に出かけたり、掃除、食事の後片付け、洗濯物たたみなどを行ってもらっている。毎朝テレビ体操とストレッチ運動を無理のない範囲で楽しく実施している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一応、事務所金庫にてお預かりしているが、本人の希望がある時にその都度お渡ししている。 小額ではあるがお金を所持し、簡単な日用品をその中から買っている利用者もいる。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の希望に沿って全員の対応は出来かねるが、可能な範囲で買い物・美容室・散歩などの支援はしている。 (外部評価) 希望にそって近くの安全な場所を散歩したり、季節にあわせて各方面にドライブ等に出かけ、自然にふれて元気をもらっている。家族同伴の場合もある。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の方と外食、お墓参り、美術館や家へ帰るなど、本人・家族の希望があればいつでも連絡を取り支援している。 家族が行けなくても頼まれれば職員がお連れする場合もある。年に数回利用者を誘い出かけるよう職員が計画し実行している（カラオケ・回転寿司・買い物等）		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話等の希望があればホームの電話を使用し、お話しする機会を作っている。切手を購入し、友人や家族へ手紙を出される方の支援をしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 笑顔であいさつし、訪問しやすい雰囲気作りをしている。 お茶をもてなし、利用者と居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。点滴が必要になった時などは、職員か家族が側についている。利用者の行為により命に危険があると判断した場合の拘束は、家族にも説明をしたうえで同意を得ることにしている。		身体拘束以外にも、言葉が命令的になったり禁句言葉を使ったりしないよう気をつけている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての扉に鍵をかけず開放している。しかし夜間20時以降は防犯のため施錠する。また徘徊が顕著な利用者も居るため、玄関にセンサーは設置している。居室は内側からしか鍵が掛けられなくなっているため職員は掛けられない。 (外部評価) 利用者に心理的な不安感を与えないよう、日中は全ての扉に施錠していない。安全性を確保するため玄関にはセンサーを設置し、利用者一人ひとりに目配りし、安全な生活ができるよう支援している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は職員同士の声掛け合いで随時所在確認をしている。 夜は2時間毎の巡視を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) はさみ等使用可能で本人が希望する（取り上げると不穏になる）方は個人で保管してもらっているが、ほとんどの利用者は職員が管理し（ハサミ・針・爪きり・包丁等）一人ひとりの状態に応じて、注意を要する時は見守りにて使用していただいている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 常々個々のリスクを頭に置き、転倒・窒息などが考えられる利用者にはそれぞれに予防策を講じている。薬は決められた投薬時間に職員が渡すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防による応急手当の勉強会・実技を行った。防火研修会等の研修に職員が出席している。緊急時マニュアル・連絡網を作成している。	※	再度、消防署の協力を得て、救急講習を行いたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年二回消防訓練(消火・避難・通報)を実施している。火災通報装置と火災専用電話機を設置し、職員及び隣家にも協力をお願いし、それぞれに自動通報されるようになった。 (外部評価) 災害時には隣家の協力が得られることになっており、火災通報装置と、職員及び隣家に自動通報が可能な火災専用電話機を設置している。年2回の災害訓練を実施しており、その内1回は消防署の指導を受けて実施している。	※	分かりやすい災害マニュアルをホームの要所に設け、非常災害時に備えることを期待する。また、次回の訓練時には協力してもらえる隣家の方にも参加してもらおう等の工夫も期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の面会時や、その他でも状態が変わったときは管理者から連絡をしている。抑圧感のない暮らしの提供の一環として、威圧的な態度や言葉掛けを慎むよう努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝と入浴前のバイタルチェック、食事摂取量、本人の体調の変化や異変、入浴時に気付いたことなどを記録し申し送りを徹底している。本人の訴えに耳を傾け、必要に応じて受診している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬内容表をファイルに保管し、薬の内容を理解するように努力している。薬が変わった場合は申し送りノートなどで職員全員が周知し、利用者の状態に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 繊維の多い食材や乳製品を用いたり、水分摂取量に気をつけたり、毎朝の体操・廊下歩きなど適度な運動をしていただく等、自然排便に心掛けている。それでも排便が困難な方にはセンナ茶を飲んでいただいている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 歯磨きは毎食後行うよう利用者呼びかけ、自力困難な人には介助にて行っている。入れ歯は就寝中は外し、洗浄剤など利用し清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重の増減等に気を付け、一人ひとりに応じた(腎機能低下・糖尿病等)食事量・栄養バランスを考えている。水分は毎食の汁物と一日二回のお茶の時間に出来るだけ摂取していただくようにしている。毎食摂取量を記入している。 (外部評価) それぞれに応じた食事が確保できるよう、食事時は楽しい雰囲気をつくるよう努めている。毎食汁物をメニューに加え、1日2回お茶の時間を設け、必要な水分量が十分確保できるよう努めている。また、協力医療機関の栄養士から指導を受けることができる体制になっている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症マニュアルをファイルし、職員が常時見れるようにしている。外出後・食事前には必ず手洗いをしペーパータオルを使用している。食前には手を消毒している。インフルエンザ流行時期には職員も来所者もホームで用意したマスクを着用していただいている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は週三回購入し買い溜めしない。生ものは必ず当日に使用。一つ一つ購入日を記入し、賞味期限切れには注意している。まな板・ふきん等は頻繁にハイター消毒している。食器洗い機を使い高温乾燥させている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 敷地入口に大きな看板があり分かりやすい。駐車場もあり車でも訪れやすい。玄関前には花を植えベンチも設置し明るい雰囲気になるよう心掛けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎朝の掃除により気持ちよく過ごされている。毎月の手作りカレンダー・飾りつけにて季節感を出している。リビングや食堂等、随所に花を飾り、季節を感じ居心地良く過ごせるよう工夫している。 (外部評価) 明るくて風通しがよく、すがすがしい共用空間である。広間にはすすきを活け、季節感を醸し出している。壁には外出時のスナップ写真を飾り、ほのぼのとした明るさを感じる。全館、床暖房となっている。一階のユニットでは常にテレビの音声が流れているが、やや単調さが感じ取れる。	※	食事時などテレビを見ていない時間帯にはそれぞれの時間帯にふさわしい音楽等を流すなど、雰囲気を楽しめるような工夫について検討することを期待する。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや食堂の席・玄関の椅子など利用者同士で話をされたり、居室で独りになったり、思い思いに過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族にも協力していただき、できるだけ家で使われていた馴染みの物を持ち込んでいただくようお願いしている。家族の写真・使い慣れたベッド・仏壇などを置き、心地よく過ごしていただいている。 (外部評価) どの居室も明るく、好みの物品や馴染みの写真などを持ち込み、その人らしい部屋となっている。畳の部屋や仏壇を持ち込んでいる部屋もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ホーム内の随所に温度計を置き、入居者の体調に気遣い、温度調節・換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全に暮らせるよう、段差のない空間・必要な場所への手すり設置・ソファの設置場所等に配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 手作りのカレンダーをテレビの上へ貼り、時計も利用者の見やすい場所に掛けてある。トイレも「使用中」「空き」が分かるようにしている。一人ひとりが出来ること・出来そうなことを職員が見ながらいっしょにしたり、してもらったりしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 天気の良い日は外のベンチで涼んだり日向ぼっこをしながら花を見たり歌を歌ったりして楽しまれている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者や家族との会話を通じて理解しようと努力している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつの時間や職員の手が空いた時間などには雑談をしながらゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事時間・入浴時間以外は利用者一人ひとりのペースで過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者が望む対応をした場合に見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	庭のベンチや散歩などは行けるが、もっと遠くへとなると難しい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	高齢になると不安はなくならないと思う。月二回の訪問診療やその他にも訴えがあれば随時受診し、不安なく過ごしていただけるよう努力はしている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時の要望に応じても次から次へと違うことを望まれる利用者もいる。職員一人では判断できない要望はすぐには支援できないこともある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ホームに来られない家族も居るので聞く機会がない。困っていることや不安なことが無いのかも知れないが…。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	退所された方やボランティアの方が来られる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議に出席する人が増えているから。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	待遇面や仕事・人間関係のストレスがある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	次々と要求が出てきて、全部言うようには出来ず、なかなか満足していただくのは難しいと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	不満を耳にすることがあまり無いので、概ね満足されていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者によりゆとりと不安なく生活していただけるよう、試行錯誤しながら精一杯支援させていただいています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム 憩の郷

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏名

山内 栄樹

評価完了日

平成 20 年 7 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 事業所独自の理念はある。 地域の中でその人らしい暮らしが出来るように援助することを掲げている。 (外部評価) 「利用者一人ひとりがその人らしい暮らしができるよう援助していく」ことを理念の柱とし、具体的に地域で安心した生活を送れるよう「明るい挨拶、優しい言動、思いやりの心、自立の気持ち、ケアの研鑽」を実践目標として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価で指摘された掲示場所と文字の大きさを変更し、各フロアの玄関に大きく読みやすい文字で理念の五ヶ条を掲示した。 (外部評価) 全職員が理念をより身近なものとして理解し、共有し合って具体的に日々のケアに活かすことができるよう、ホーム内に理念を明示するなどして取り組んでいるが、理念について全職員で話し合う機会は少ない。	※	管理者と職員が一体となり、理念の実践に向けてより一層取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念をアピールする事はないが、玄関に掲示した理念の五ヶ条を見て理解してもらえると思う。 地域の行事参加、運営推進会議等を通し、理解してもらえるよう取り組んでいる。	※	理念が日々のケアの中で活かされているかどうかミーティング等で定期的に話し合い、より理解を深めていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩やホーム周辺の清掃中の時などに、あいさつや日常的な会話もあり、開かれたホーム作りに努めているが、近所の人との出入りは少ない。	※	気軽に立ち寄ってもらえるような関係になるのはなかなか難しいと思うが、積極的に声かけをしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 認知症の方々なので自治会や老人会への参加はなかなか難しいが、祭りや盆踊りなどの行事などには参加している。 (外部評価) 自治会に加入し、夏祭りや盆踊りなどの地域活動に積極的に参加して楽しんでいる。また小学校の運動会に参加したり、中学校の体験学習や大学の実習生なども受け入れている。		ほとんどの利用者は、一人に職員一人の介添えが必要なので、限られた職員が日常の仕事に支障なく行事に参加するにはどうしても職員に負担が掛かる。頻繁に参加することはなかなか難しいが、無理のないよう出来るだけ参加したいとは思っている。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 利用者の皆さんの事で精一杯であり、地域の高齢者のことまでは余裕がない。家族のことで相談に来られた方への助言は何度か行った。	※	職員誰もが地域の高齢者の困り事などに十分対応できるよう日々勉強していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 事業所より良いサービスの在り方を追及していく材料としては考えている。職員一人ひとりが自己評価をすることにより一つ一つを理解し、自己啓発に努めている。 (外部評価) 自己評価は各職員が全項目にわたって取り組み、管理者が集約して作成している。作成後、改善点等に関して全職員での話し合いは行っていない。また、外部評価での改善方策等についても話し合う機会は持っていない。	※	理解はしているが具体的な改善には取り組んでいないこともある。自己啓発により出来ていないことを改善していきたい。 自己・外部評価共に改善点等について全職員で話し合いを持ち、評価結果を日々のケアの向上につなげていくことが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議では各分野の方々の参加もあり、積極的な意見交換が行われている。さらなる地域の情報を得るため、去年より地域の参加者が2名増えた。 (外部評価) 2か月に1度、家族の代表、地域代表、市担当者などの出席を得て、ホームから行事報告、利用者の生活状況、災害対策などの情報を伝え、地域包括支援センターから支援状況の説明等を行っている。次回からの会議では出席者から更に多くの声を聞き取れるよう取り組んでいく考えである。		前回の外部評価で提案された、消防署や交番等の参加も視野に考えていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 毎月、地域包括支援センター北条が開催する松山市北条サービス調整会議の参加により情報収集に努め、勉強会によりサービスの質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 地区サービス調整会議に管理者が出席し、情報交換や交流を行い、また地域密着型サービスなどに関する話し合いに定期的に出席して学習を重ねている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員全員に高齢者虐待・権利擁護事業等の資料を配布している。講習会にも数名参加し、ミーティングで話し合った。現在は必要と思われる利用者はいないと思われるが、いつでも支援できるよう理解はしているつもりである。	※	職員に資料を配布しているが、よく理解出来ていない者もいるようである。いつでも誰でも支援できるよう指導していきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 講習会に参加し、ミーティングでも話し合っている。虐待が見過ごされないよう、管理者や職員同士で注意を払っている。	※	時として、言葉の暴力や冷たく感じられる態度が見受けられる事があるが、それぞれがそれに気付き、反省し努力している部分もある。お互いが注意し合い防止に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約をするときは必ず重要事項説明書や利用契約書を渡して説明し、不安なことや疑問点はいつでも受け付けることを伝えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当を決め接する機会を多くし、話しやすい環境作りに努めている。管理者はそれぞれの入居者と個別に触れ合う機会を持ち、情報収集に努め、不満や苦情は職員と相談しながら対応している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 特別な状態でない場合は、毎月請求書の送付時に個別の近況報告や小遣い帳のコピー、レシート、写真等をお送りしている。健康状態が良くない場合は、その都度家族に連絡を取り、報告または相談をしている。 (外部評価) 毎月ホームから「個人便り」を家族に届け、金銭管理報告、生活の様子、健康状態などを写真を添えて伝えている。更に担当スタッフから、利用者の日々の暮らしの様子を手紙にして届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱をホームの玄関に設置している。一度だけあった家族からの不満・苦情は管理者が受け付け、家族の家で話し合いをし説明をさせていただいた。職員全員へ苦情内容をすぐ説明し、注意を促した。 (外部評価) 家族がホームを訪ねた際や、ホームの敬老会やお花見に参加してもらった際などに、忌憚のない意見や要望等を直接聞き取り、ケアに活かしている。また、ホーム内外の苦情相談窓口を明示して家族にも説明している。		何気ない言葉遣いや態度で利用者が傷つき、誤解を招くことがあることを職員に説明し、気をつけるよう指導した。 今後も本人や家族が遠慮なく苦情の言える関係を作って行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回のミーティングや年2回の食事会で職員の意見や提案を聞く機会を設け、出来るだけ提案に沿うよう努力している。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 可能な範囲で調整はしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係が維持できるよう、職員の異動はしていない。離職を抑える努力はしているが仕事の合う合わないもあり、仕方のない場合もある。新しい職員が入った時は、利用者のダメージがなく早く馴染みの関係が出来るよう、他の職員も気遣っている。 (外部評価) 利用者との馴染みの関係を大切にするため、職員の異動は行っていない。離職などでやむを得ない場合は、引き継ぎ等で職員が協力し合い、スムーズに移行できるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 市内で開かれる研修会の予定表を配り、本人の希望に合わせて全職員必ず年一回以上参加させている。介護技術の向上のため資格手当を設け、積極的に資格を取るよう進めている。 (外部評価) ホームは職員の育成を実践目標として掲げている。全職員が年間1回は希望する研修会に出席するよう決めており、参加した職員は研修報告書を作成し、他の職員は報告書を閲覧して共有し、ケアに活かすよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は地域のサービス調整会には積極的に参加し、情報交換等に努めている。 (外部評価) 地区サービス調整会に管理者が毎回出席して同業者間の交流を持ち、連携を大切にしている。また、同業者間で職員の日交代勤務を行うなどの取り組みを実現できるよう、ネットワーク作りに取り組んでいる。	※	グループホーム連絡協議会主催の相互訪問の参加を予定している。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 年二回の食事会の機会を設けたり、日々職場の中で出来るだけ職員の話の聞いたりして、ストレスの原因を把握するよう努めている。	※	職員同士の意見の相違によるストレスは個々人の考え方や視点の違いもあり解決の難しい部分もあるが、できるだけ話を聞きストレス軽減を図りたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 休みの日に研修を受けたものには手当を支給し、積極的に資格取得をしている職員には資格手当を支給している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初は家族からの相談がほとんどで、家族の要望を聞き、入所された後で本人の意見や困りごとなどを聞くことになる。入所当初は職員が頻りに声を掛けたり、気付いたことを連絡ノートに綴ったりしながら情報を共有し、職員全員でケア出来るよう努めている。	※	難しい場合もあるが、出来るだけ入所前に本人の困っていることなどをお聞きできれば安心して入所に至れるかと思われる。家族と相談しながらそのように進めていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用申込みされる時、困っていることや希望を聞き、また相談に乗っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた本人の状態を見極め、他のサービスの紹介や必要な支援の提供に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族や、出来るだけ本人にも見学してもらっている。やむを得ず利用になった場合は、家族に頻繁に来ていただいたり使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいただくようにしている。 (外部評価) 入居の受け入れ態勢が整った際に家族と共に来訪してもらい、直接面接を行っている。更にホームの生活の様子を見てもらい、納得した上で利用を開始してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) テレビを見ながらお話をしたり居室で雑談をしながら、利用者の智恵を学んだり喜怒哀楽を共にしている。できることは職員が付いて一緒にしてもらっている。 (外部評価) 理念の中に「その人らしい暮らしができるよう支援していく」ことを謳っており、喜びと誇りを持って毎日過ごしてもらえるよう、利用者の得意分野で力を貸してもらい、「お互いさま」の気持ちで生活を分かち合うよう努めている。	※	一方的な関係になりがちであるが、出来ることはもっとしていただき、生き甲斐を感じながら生活していただけるよう努力していきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、ホームでの状況報告をしており、情報の共有に努めている。利用者のことで困ったことがあれば、家族にも意見を求め協力を仰ぎながら一緒に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族が来所されたとき、自室にて回りに気を使わず話せるようにしている。職員も家族の一員として共に過ごし、良い関係が保たれていると思う。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 誰でも自由に来所していただけるようにしている。かかりつけの病院へはお連れしている。その他は特に希望もなく職員が特別な支援はしていない。家族と一緒に外出して馴染みの場所へ行かれる利用者もいる。		会わせてあげたい、見せてあげたいと思う時があるが、行動には移せていない。本人の希望があれば支援したいと思っている。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の係わり合いは見守り、些細なこともすぐ解決するようにしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービス利用が終了した後、継続的な関わりを必要とする利用者は今のところ居ないが、そういう場合があれば対応していくつもりである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自由に過ごしてもらっているものの集団生活であるのですべて希望に応えられない場合もあり、思案しつつ解決できないままであることもある。アセスメントにて検討し、本人の希望や個々に合った暮らし方を見つけ居心地良く過ごしていただくことができるように心掛けている。 (外部評価) 声かけを積極的に行い、意思疎通の困難な場合は表情や行動から思いや意向の把握に努めている。また、職員会議の際には職員同士で情報を伝え合い、共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 最初から多くは分からないが、本人や家族等の話から見えてくるので把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 職員同士で気付いた点などの情報を交換で対応し、時間毎の見守りで様子を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回ミーティングを開き、計画内容を話し合い作成している。年数が経つ毎に意見やアイデアを反映した介護計画が作成できていると思う。 (外部評価) 新しい利用者に関しては本人の生活の様子や健康状態などを把握し、職員で話し合った上で1か月間の介護計画を作成している。その後、家族の意見を聞き、様々な状況を判断した上で3か月間の計画を作成している。		利用者に関わりをあまり持たない家族もいる。できれば家族も含めた話し合いが出来る方向にしたいと思う。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 現状に合った計画になるよう、変化が生じた場合は家族とも相談し、新たな介護計画を作成している。 (外部評価) 本人の生活の様子や健康状態を観察し、全職員で検討を加えた上で3か月毎に見直しを行っている。状態変化等によっては随時計画を見直し、現状に即した計画になるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日個別に日報を記録し、利用者の一日の状態が常に分かるよう申し送りをしている。職員全員が情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人や家族の要望に応じて対応している。かかりつけの医療機関やそれ以外の必要に応じた受診も職員が同行している。 (外部評価) 本人の状況や家族の希望を大切にし、買い物、散歩、墓参り、法要、美容院、受診など、その人らしい生活を安心して送れるよう、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者の意向や必要性に応じて支援する体制ではあるが、あまりそういった事はいまままでにない。毎年、板前さんにホームで握り寿司を作ってもらったり、沖縄民謡のボランティアなどの訪問は受けている。		もし何らかの必要が出来た場合は協力して支援する体制である。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 利用者の希望や体調に応じて訪問理美容サービスを利用する場合がある。訪問リハを受けた方もいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 毎月行われる地域包括支援センターのリードによるサービス調整会議で福祉サービス事業者が一同に会し、勉強会や情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族の意向によりかかりつけの医療機関での受診支援を行っている。協力医療機関とは24時間体制で連携をとっている。 (外部評価) 協力医療機関とは24時間体制で連携を取り合っている。また、近くの歯科、眼科とも協力関係を結んでいる。協力医療機関から月に2度の訪問診療を受けており、協力医療機関以外のかかりつけ医での受診にも職員が同行して支援している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 月二回の協力医療機関の訪問診療があり、医師と相談できる機会が確保されている。又、より専門的な医療が必要な場合は協力医療機関に紹介してもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 協力医療機関の看護師とも馴染みの関係であり相談しやすい。異常があれば電話で相談に乗ってくれる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院への見舞いを頻繁に行い、情報を得たり医師や看護師に相談したりしている。家族とも情報交換や相談をしながら、出来るだけ速やかに退院できるよう支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 看取りの必要が生じた場合の指針を定め、家族・医師・看護師の意見を交えて頻繁に話し合い、職員全員で方針を共有し、利用者にとってより良い終末を迎えられるよう援助している。 (外部評価) ホームの看取りの指針に従い、「重度化に伴う意向確認書」を基に家族、医師、看護師を交えて十分話し合い、全職員が方針を共有し合ってホームとして最大限のケアができるよう努めている。	※	医師も職員がより良い介護ができるよう頻繁に来て相談に乗ってくれるが、看取りに対して不安を感じる職員もいる。安心して介護が出来るよう指導し、できるだけ管理者も援助していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 必要に応じてかかりつけ医からの説明に家族にも同席して理解してもらい、要望を聞いている。ホームで出来ないことは訪問看護をしていただき、そのつど訪問看護師に職員でできることを教えていただき対応している。急変した場合はすぐ対応していただけるよう医療機関とも連携を図っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) これまでに帰宅された方が居たが、早くから取り組みを行い、ダメージを防ぐことができたと思う。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 声かけに気をつけプライバシーを損ねるようなことはしていないと思うが、誇りは傷ついている事があるかもしれない。 (外部評価) 特にトイレ誘導や介助はさりげなく行い、言葉遣い等も人生の先輩としての尊敬をもって、誇りを損なうことがないよう心がけている。個人情報の取り扱いに関しては、ホーム全体で十分注意を払っている。	※	利用者は、傷ついていても反論出来ない場合がある。日々そのようなことがないよう努力していきたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の意見を尊重し出来ることは自分でしてもらえよう支援している。どうしてこうするのか説明や努力はするものの、利用者になかなか理解してもらえないことも多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースに沿って支援したいが、職員の都合を優先し、せかしてしまう事がある。 (外部評価) 声かけを大切に、一人ひとりのその日の表情や気持ちを細かい面まで把握し、その人の希望や体調に合わせて散歩や買い物に出かけたり、食後の手伝いや洗濯物たたみなどを自由に手伝ってもらっている。	※	職員の人数には限りがあり日常の業務もあるので、すべての人に即対応するのは無理があるが、出来る限り利用者の希望に沿って支援できるよう心掛けていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) いきつけの理容・美容室のある人はいないので、ホームの近くの理容・美容室へ行ったり来たりしてもらっている。 利用者が希望される化粧品は、職員が買って来たり家族に伝えたりしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下処理は手伝ってもらえるが調理や盛り付けは衛生面から難しい。片付けは手伝ってもらっている。一人ひとりの食事の好みは把握している。 (外部評価) 調理の手伝いのできる利用者は殆どいないが、食後の片付けを自由に手伝ってもらっている。食事介助の必要な利用者は傍らに座り、声をかけながらゆったりと支援している。食事は彩りもよく、美味しく味付けされている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒を飲む人には量を決めてお出ししている。おやつや飲み物は食事制限のある人には職員の決めたもので我慢してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄時間・内容を記録し、排泄パターンの把握により紙パンツ・パット・布パンツで対応している。尿失禁・便失禁があった場合はどのように対応していくか話し合っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴拒否の人もいるのでタイミングをつかみながら対応している。意向を受け入れた援助をすることもあるが、大体は曜日・時間は職員の都合で決めている。 (外部評価) 2～3日に1度の入浴支援を行っている。入浴を嫌がる場合は、声かけをしながら促しているが、無理強いせず、別の機会を捉えて入浴してもらえよう配慮している。		時間は出来るだけ希望に沿うよう努めてはいるが、入浴日でない日は業務の都合もあり行えない。入浴日でも、現在は日勤の職員がいる時間帯でないと無理である。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 食後など、部屋で過ごしたい人は部屋で、テレビを見たい人はリビングで自由に過ごしてもらっている。リビングで眠気の起こった人はしばらく様子を見たり、居室に誘導して休んでもらったりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 力を活かした生活の出来る利用者はほとんどいないが、裁縫の得意な人には縫い物をお願いしたり、野菜を作られていた利用者には野菜の収穫をしていただいたりしている。天気の良い日には散歩やドライブなどを支援して気晴らししてもらっている。 (外部評価) 生活の状況に応じて散歩に出かけたり、掃除、食事の後片付け、洗濯物たたみなどを行ってもらっている。毎朝テレビ体操とストレッチ運動を無理のない範囲で楽しく実施している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一応、事務所金庫にてお預かりしているが、本人の希望がある時にその都度お渡ししている。 小額ではあるがお金を所持し、簡単な日用品をその中から買っている利用者もいる。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天候の良い時には外でおやつを食べたり散歩に行ったりしているが、一人ひとりのその日の希望によってと言われると対応できる時と出来ない時がある。 (外部評価) 希望にそって近くの安全な場所を散歩したり、季節にあわせて各方面にドライブ等に出かけ、自然にふれて元気をもらっている。家族同伴の場合もある。	※	一日に手を空いた時間を作り、見守りながら、できるだけ戸外に出してあげたいと思っている。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) お花見には家族の参加をお願いし楽しませている。 数人ずつドライブや外食・買い物などの機会を設けている。		家族の協力をもっとお願いして、外出する機会をもっとあげたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 可能な方には支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも来ていただけるよう努力はしている。来客が来られた時は居室にてゆっくりお話が出来るよう案内して、お茶をお出ししている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在身体拘束はしていないが、危険である場合は家族の理解を求め許可してもらっている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての扉に鍵をかけず開放している。しかし夜間20時以降は防犯のため施錠する。また徘徊が顕著な利用者も居るため、玄関にセンサーは設置している。居室は内側からしか鍵が掛けられなくなっているため職員は掛けられない。 (外部評価) 利用者に心理的な不安感を与えないよう、日中は全ての扉に施錠していない。安全性を確保するため玄関にはセンサーを設置し、利用者一人ひとりに目配りし、安全な生活ができるよう支援している。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は職員同士の声掛け合いで随時所在確認をしている。 夜は2時間毎の巡視を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 管理できる利用者には状態に応じ、はさみや針などを本人に持ってもらっているが、できない利用者は職員が預かり、見守りながら使用していただいている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 薬は職員が管理し、一人ひとりに飲むタイミングを図っている。転倒はリスクを考え注意しているが、いつも側に居る訳にもいかず防げない時もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防による応急手当の勉強会・実技を行った。防火研修会等の研修に職員が出席している。緊急時マニュアル・連絡網を作成している。	※	再度、消防署の協力を得て、救急講習を行いたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年二回消防訓練(消火・避難・通報)を実施している。火災通報装置と火災専用電話機を設置し、職員及び隣家にも協力をお願いし、それぞれに自動通報されるようになった。 (外部評価) 災害時には隣家の協力が得られることになっており、火災通報装置と、職員及び隣家に自動通報が可能な火災専用電話機を設置している。年2回の災害訓練を実施しており、その内1回は消防署の指導を受けて実施している。	※	分かりやすい災害マニュアルをホームの要所に設け、非常災害時に備えることを期待する。また、次回の訓練時には協力してもらえる隣家の方にも参加してもらおう等の工夫も期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 家族の面会時や、その他でも状態が変わったときは管理者から連絡をしている。抑圧感のない暮らしの提供の一環として、威圧的な態度や言葉掛けを慎むよう努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝と入浴前のバイタルチェック、食事摂取量、本人の体調の変化や異変、入浴時に気付いたことなどを記録し申し送りを徹底している。本人の訴えに耳を傾け、必要に応じて受診している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬内容をファイルに保管し、薬の内容を理解するように努力している。薬が変わった場合は申し送りノートなどで職員全員が周知し、利用者の状態に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 繊維の多い食材や乳製品を用いたり、水分摂取量に気をつけ、毎朝の体操・廊下歩きなど適度な運動をしていただく等、自然排便に心掛けている。排便確認やトイレに行く様子を見て便秘に気付いたり、本人の訴えがあった場合は話し合い、薬の服用などの対応をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 歯磨きは毎食後行うよう利用者呼びかけ、自力困難な人には介助にて行っている。入れ歯は就寝中は外し、洗浄剤など利用し清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体重の増減等に気を付け、一人ひとりに応じた(腎機能低下・糖尿病等)食事量・栄養バランスを考えている。水分は毎食の汁物と一日二回のお茶の時間に出来るだけ摂取していただくようにしている。毎食摂取量を記入している。 (外部評価) それぞれに応じた食事量が確保できるよう、食事時は楽しい雰囲気をつくるよう努めている。毎食汁物をメニューに加え、1日2回お茶の時間を設け、必要な水分量が十分確保できるよう努めている。また、協力医療機関の栄養士から指導を受けることができる体制になっている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症マニュアルをファイルし、職員が常時見れるようにしている。外出後・食事前には必ず手洗いをしペーパータオルを使用している。食前には手を消毒している。インフルエンザ流行時期には職員も来所者もホームで用意したマスクを着用していただいている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は週三回購入し買い溜めしない。生ものは必ず当日に使用。一つ一つ購入日を記入し、賞味期限切れには注意している。まな板・ふきん等は頻繁にハイター消毒している。食器洗い機を使い高温乾燥させている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 敷地入口に大きな看板があり分かりやすい。駐車場もあり車でも訪れやすい。玄関前には花を植えベンチも設置し明るい雰囲気になるよう心掛けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎朝の掃除により気持ちよく過ごされている。毎月の手作りカレンダー・飾りつけにて季節感を出している。行事料理を作って季節を感じてもらえるよう工夫をしている。 (外部評価) 明るくて風通しがよく、すがすがしい共用空間である。広間にはすすきを活け、季節感を醸し出している。壁には外出時のスナップ写真を飾り、ほのぼのとした明るさを感じる。全館、床暖房となっている。一階のユニットでは常にテレビの音声が流れているが、やや単調さが感じ取れる。	※	食事時などテレビを見ていない時間帯にはそれぞれの時間帯にふさわしい音楽等を流すなど、雰囲気を楽しめるような工夫について検討することを期待する。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや食堂の席・玄関の椅子など利用者同士で話をされたり、居室で独りになったり、思い思いに過ごせるようにしている。入所当初には支援を行うが、慣れてこられると介入はあまりせず自由に思い思いに過ごしてもらっている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族にも協力していただき、できるだけ家で使われていた馴染みの物を持ち込んでいただくようお願いしている。家族の写真・使い慣れたベッド・普段馴染んでいる畳などを置き、心地よく過ごしていただいている。 (外部評価) どの居室も明るく、好みの物品や馴染みの写真などを持ち込み、その人らしい部屋となっている。畳の部屋や仏壇を持ち込んでいる部屋もある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ホーム内の随所に温度計を置き、入居者の体調に気遣い、温度調節・換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全に暮らせるよう、段差のない空間・必要な場所への手すり設置・ソファの設置場所等に配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 長く入所されている利用者は十分把握できており問題なく過ごされているが、新しい利用者は観察を行いながら時間を掛けて混乱や失敗の無いよう支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 二階のベランダは狭く、洗濯物を干しているので活動に利用することは出来ないが、外へ出て散歩したり花を眺めたり話をしたりするようにしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中で、それぞれの思いや願いは掴んでいる。 しかしそれをすべて実行するのは無理である。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつやの時間や空いた時間にテレビを見たり雑談をしながらゆったりと過ごす場面はある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自由に過ごしてもらっていると思っているが、そう思っていない人も一部いるかもしれない。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけや話し相手、お手伝い、レクリエーションなどで楽しそうに笑顔と満足された様子が伺える時がある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	行きたいところは一部の人しか言えず、それもすべては叶っていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	訪問診療や随時の受診を受けているが、やはり高齢になるとなにかしらの不安を感じていると思う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分中心の人もおり、すべての人に対応はできないが、状況に応じた柔軟な姿勢は努力している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価)	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	遠くに住んでいる家族からは直接話を聞く機会がほとんどない。来所される家族とは状況を話しながら良い関係が出来ていると思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	ボランティアの方が来られる。馴染みの人が来られるのは限られた利用者である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進委員が増え、地域とのつながりも少しずつ広がっていると思う。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフ間のコミュニケーションはよく取れているが、支援の面で意見の食い違いもあり、取り組みたいことができない場合がある。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望が多く、愚痴や不満を述べられる利用者もいる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	直接の苦情はない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

新鮮な食材で、美味しい食事や季節感を交えた献立を立てています。
自分で出来ることは出来るだけしていただくよう心掛けています。
この一年で二名の方を看取り、出来ることを一生懸命させていただきました。